

# 令和6年度 第1回 仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

1 日時 令和6年6月4日（火）午後15時00分～午後16時30分

2 場所 仙台市役所本庁舎 8階 第四委員会室

## 3 出席者

[地域福祉専門分科会委員] 14名（委員定数17名）

阿部重樹委員	伊丹さち子委員	小川登委員	小岩孝子委員	佐々木洋委員
庄子清典委員	高野章子委員	立岡学委員	釣舟晴一委員	傳野貞雄委員
中田年哉委員	村山くみ委員	谷津尚美委員	渡邊礼子委員	

（五十音順）

※欠席委員：大内修道委員、三浦啓伸委員、渡邊純一委員

[事務局]

○健康福祉局	大槻地域福祉部長	庄子参事兼地域包括ケア推進課長
	千代谷総務課長	佐藤社会課長
	石川保護自立支援課長	坂井障害企画課長
	宍戸障害者支援課長	小笠原高齢企画課長

○こども若者局 三井総務課長

[オブザーバー]

○仙台市社会福祉協議会より4名

## 4 次第 (1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 委員及び事務局職員紹介

(4) 議事 せんだい支えあいのまち推進プランの中間評価アンケート先等について

(5) 報告事項

(6) 閉会

## 5 内容

(1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 委員及び事務局職員紹介

- ・ 3名の委員が都合により欠席される旨を報告
- ・ 過半数の委員の出席により、定足数を満たしていることを報告

(4) 議事

せんだい支えあいのまち推進プランの中間評価アンケート先等について

- ・ 議事録署名人は、会長と、他1名については佐々木洋委員に依頼→佐々木委員承諾

○社会課長

〈資料1、2、3、4に基づいて説明〉

〈質疑応答〉

○庄子委員

資料2について、記載のアンケート先は実際の送付先なのか、あくまでも例えということ  
で記載しているのか、もう少し詳しく教えていただけると理解が進むため、説明いただきたい。

○阿部委員長

質問については事務局で対応いただきたい。また事務局の回答を受け、庄子委員からアンケート先の提案の可能性があればご意見をお願いしたい。

○社会課長

記載しているアンケート先は案としての提案か、具体的な送付先かという質問と思う。こちらは具体的なアンケート先という想定で記載している。各事業に関連する関わりのある事業対象者として、アンケート先を記載し、その他の事業については、各事業所管課に対象となるアンケート先を確認している。

○立岡委員

1 点目として、中間評価でのアンケート実施について、過去にやったことがある事例はあるか。

2 点目として、過去の審議会で仙台市の事業評価について1つずつ確認していた記憶があり、事業それぞれに詳細な内容が書かれていたように思う。アンケート様式には対象事業と1行で書かれているが、ここに付随する事業がいくつかあるため、結構ボリュームのあるアンケートになるのではないかと。そのため、団体が市の事業を理解し評価できる指標をどの程度持っているのか、本当に適切な評価ができるのかとは凄く感じる。

アンケート先には自分の所属団体も含まれている。自分はこの場にいるため内容を理解できるが、そうではない団体が実際にアンケートを送付されて評価を依頼された際、仙台市がやっている事業を我々が評価できるのかと戸惑ったり、評価できるほどのものではないかと思ってしまうたりしないか。どこまでアンケート先の理解を得られるかという疑問があるため、この2点について説明いただきたい。

○社会課長

このような形でプランに対するアンケートを行うのは初めての取り組みである。

ご指摘の通り我々も含め受け取られる関係団体も初めてのものであるため、調査票の送付にあたり、事前の丁寧な説明が必要と考えている。各団体に内容の趣旨や、記載の方法などを直接具体的に説明し、その上で記入の協力依頼をしたいと考えている。

○立岡委員

弁護士会や司法書士会などは専門職の方々のため、辛口の評価をされる場合もあるかもしれないし、自分たちは評価できる立場にはないという意見もあるかもしれない。実施する際には丁寧な説明がないと理解が難しいと思う。

実際に今臨席する委員が評価するのであれば一定程度理解できると思うが、各団体の事務局が評価するとなると、どの程度事業の内容を理解しているかと思う点もある。回答する側に理解してもらえる形で取り組みを進めるのがよいと思う。

○阿部委員長

提案として事務局にて受け止めていただきたい。

○伊丹委員

アンケート先に包括協が4か所入っており、令和4年度の評価が対象となっている。令和

4年度はコロナの真っ最中で、おそらく地域活動をやっていないところが多く、例えば認知症カフェの推進は逆に衰退している。そのため、推進という言葉は果たして妥当なのか、正しい評価ができるのかというのは一つ懸念がある。

また包括協と記載されているが、令和4年度だと52センターが該当する。この52センター全部にアンケートを周知するという理解でよろしいか。正しい評価ができるのかといった危惧がある。

○阿部委員長

1点目は評価のあり方について、2点目は実際の調査のあり方に対する質問である。事務局より回答をお願いしたい。

○社会課長

令和4年度はまだコロナの流行を繰り返していた時期で、地域での事業実施がなかなかできなかったと思う。その中で工夫をしながら、あるいは形を変えて事業を行っていた団体もいたのではと思う。事業者がコロナの状況下で創意工夫し実施した事業と、それを受けた主管課の評価について、皆様に確認してもらいたい。またそれをプランの最終年度の調査と合わせ、コロナ前後の事業の実施状況とその評価のあり方を比較していきたいと考えていた。事業によっては評価しづらいものもあると思うが、可能な範囲で感じたことを記載いただければと思う。

調査のあり方だが、まず初めに事務局にアンケート調査について連絡し、資料の送付等実施方法について説明しながら依頼したいと考えている。

○伊丹委員

事務局がどこまで包括の業務内容を理解しているのかは心配。最終的に自分のところに質問がくる可能性がある。事務局でも包括協の業務について理解してもらおうという点ではよいかもしれないが、二度手間三度手間にならないような形でお願いできればよいと思う。

○阿部委員長

先ほど事務局からあったように、個別のやりとりをとおし、引き受けてもらいやすくアンケートが取りやすい対象にお願いするのではと思う。個別の対象案件ごとに相談しアドバイス等をもらいながら、事務局側で融通性をもち状況に対応しながらアンケートを実施すると思うが、いかがか。また、そのやりとりによって、事務局も現場の状況を勉強するということになるのだと思う。ご支援いただければありがたい。

○社会課

そのように考えていた。

○釣舟委員

自分の所属は仙台市精神保健福祉団体連絡協議会になる。アンケート様式の行政の部分は記載されて回ってきて、そこに意見を記載するという認識か。こちらが分かりやすく色々な意見を書くと、事務局としては凄く参考になるというイメージでよろしいか。行政部分に色々と記載されており、それに応える形であれば書きようがあると思う。

また個別の話になるが、私の団体が回答する実施事業に精神障害者家族教室事業とあるが、なぜこれが選ばれたのか、後でもよいので教えていただきたい。

○社会課長

1点目についてはいただいた通り。担当課で評価の理由を記載しているため、そちらを確認してもらい、現場で感じている達成感と比べて感じたズレや意見を記入してもらえればと

考えている。

2 点目の対象事業の選定については、アンケート調査ができる事業として、関係先のある事業を選出している。そのうえで担当課にも事業評価を受けることについて確認をとり、一覧に取り上げている。

#### ○阿部委員長

2 点目については、担当課も含めて白羽の矢が立てられたということのようだ。今回のアンケートにて、行政側で正しく把握していることが心強く思ったというような、場合によっては励ましの言葉があればよいと感じる。行政の自己評価が低い場合にそのような意見が出て、高い場合には出てこないのではと思われるが、それでよいのではとも思う。

#### ○立岡委員

様々なアンケートで評価をする際、対象者は必ず支援者側で、当事者に調査することがない。事業によっては当事者に聞けないものもあるかもしれないが、実際の当事者や支援を受けている人にアンケートや評価をしてもらうことは極めて大事なのではないか。自分が関連するところで生活困窮者就労準備支援事業があるが、ハローワークで分かるのかと思うところはある。就労準備にcoming している当事者に、仙台市で考えている事業の形や取り組みを説明し、それに対して評価をしてもらってもよいのではないか。難しいものもあると思うが、やはり支援を受けている人の評価を入れてもらうのは必要だと思う。

#### ○阿部委員長

事務局でそのあたりの制度設計や体制の見直しの余地があるか、ある場合は検討するということで受け止めていただきたいが、いかがか。

#### ○社会課長

今回の中間評価では、事業の実施主体と、そこに近い立場にいる関連の事業所に対し、事業の評価のあり方について評価をいただくよう設定している。その一方で、確かに実際の当事者の満足度調査というのは、非常に意義のあるものと考えている。

今回はズレの部分のポイントに置いているため、事業者への調査を進めることになるが、今後プランの最終年度に向け様々な調査を行うなかで、実際の利用者の満足度も調査に加える旨、課題として受け止めたい。

#### ○立岡委員

ぜひ前向きにお願いできればと思う。いつも支援者が評価しているイメージがあるので、支援を受けている人からの評価をどこかで取っていただきたい。

#### ○渡邊礼子委員

対象のアンケート先について、例えば参考資料 3 のボランティアフォーラムの件ではボランティア連絡協議会が評価先になっているが、フォーラムはボランティアセンターが主催している。この例では連絡協議会としてではなくボランティアセンターが評価を書いていると思うが、それでも大丈夫か。

同じように、例えばボランティア育成講座という事業もボランティアセンターで実施しているが、そこに対する評価で構わないか。

#### ○社会課長

ボランティアセンターで開催している事業について、関係機関である協議会の方々に、改めて協議会の立場で評価してもらいたいと考えている。

○阿部委員長

そのような視点から選ばれたと理解して、アンケートに回答いただきたい。

○谷津委員

2点質問がある。

アンケート先について、1つの事業に対しアンケート先が1か所のものと数か所あるものがあるが、公正な評価を受けるのに適当な実施先の件数など、事務局の考えを伺いたい。

対象事業の中身について、重点事業は理解した。その他の事業について、各局担当課からの推薦という話だったが、分科会として地域福祉活動計画（せんだい ai プラン）を評価するとしたとき、例えば障害であれば高齢が多く、こども分野は1つのみである。仙台市民を網羅し、地域福祉の住民の声を評価できるような全体のバランスといった点での考えを伺いたい。

○社会課長

1点目のアンケート先について、事業主体の関連先という点から選定を始めた。その結果関連団体の多い事業と、限定的である事業の差が見受けられた。そのため実施先が数か所に至るものと、1つに絞られる事業が出てきたというのが現状である。できるだけ多くの方々に評価してもらうのが望ましいが、その選定に苦慮した。

2点目のその他事業における分野ごとのばらつきについて、バランスをどのように考えているかという質問だったと思う。こちらも事業に関連する事業者の有無という点で、非常に選定に苦慮したところである。

例えばこども分野の事業選定にあたり、今まさに様々な事業が展開され始めており、仙台市より事業を委託している事業者が大変多い状況であった。その中で評価してもらう関連団体を選ぶのが難しかったため、こども分野は事業数が少なくなってしまった。一方高齢のように長く様々な関わりを持って実施している分野は、関連先として幾つか選定ができたため、幅広い事業が対象になったと考えている。

○谷津委員

それでよいのかという点については分からないというのが正直な感想である。

○阿部委員長

中間評価を公表する際、分野ごとの事業数の差の理由やアンケート先の選定における基本的な方針について、注釈やコメントがないと、結果を見たときに同じような疑問を持たれることは十分あり得る。そのため、当事者の意見も聴取し重ね合わせて評価する必要性という課題や、調査の実施にあたっての背景となる考え方を説明したうえで、中間評価の実施について理解してもらえればと思う。

さらにこの場では難しいかもしれないが、委託事業者以外の連携先がある事業の提案があれば、今後に生かしていけると思うので、各委員それぞれの専門の立場で情報提供いただければと思う。事務局も気づいていないこともあると思うので。

ではほかに意見をいただきたいが、いかがか。

○村山委員

1点確認だが、中間評価の実施対象先がどこで、どのような回答をしたかというのはすべて公表されるものか。それとも回答先はシークレットとして、大体このような団体に聞いた結果として公表されるのか。その辺も回答に関わる点かと思うので、教えていただきたい。

○社会課長

中間評価の取りまとめ方法について、次回の速報の際にお諮りしたいと考えていたが、ご

指摘の通り回答をどういう形で周りに示すかで色々と変わってくる可能性もあるかと思う。事務局で検討し、できる限り答えやすい、感じたことを表現しやすい調査のために工夫したいと考えている。

○阿部委員長

今回の分科会で村山委員から出された要素を含め提案いただけるということであるため、その際また議論いただきたい。

○庄子委員

色々話を伺って、委員長の案はあるかという問いかけに関連し提案する。近年社会福祉法人が地域における公益的な取り組みとして、小規模なネットワークを組み始めており、その地域の中で複数の社会福祉法人やNPOなどとネットワークを組んで地域活動を始めている。町内会や社協との連携が起こっている可能性もあるため、そういったところにアンケートを取るのも1つとして提案したい。

○阿部委員長

仙台市が社会福祉協議会の活動計画だったか、どちらかでそこにウエイトを置いて計画を作っていた記憶がある。仙台市の計画で事業内容にある場合は追加の可能性を検討いただければと思う。社会福祉協議会の活動計画にも入っていたか確認してもらえればと思うが、いかがか。また社協としても調査を行う際に、今の発言を参考にして調査をしていただければと。仙台市としてまずはいかがか。

○社会課長

仙台市としても調査先として相談できる先があるか、事業内容を確認し、もし事業があった際には積極的に行うよう検討していきたい。まずは事務局で状況を確認する。

○社会福祉協議会 地域福祉係長

該当事業があるか確認してみる。

○庄子委員

ネットワークを組んでいる先として2・3か所紹介をしたうえで、対象になるか検討いただくということではいかがか。

○社会課長

そのような形でお願いしたい。

○立岡委員

このような評価でのアンケートは仙台市で初めてということだが、他の札幌市や広島市など、仙台市と同規模の政令市でも同様に実施しているのか。他の都市の例となる評価方法があつての仕組みなのか、仙台市独自で行っていることなのか。他都市の事業の評価方法について分かるのであれば教えていただきたい。

○社会課長

今回のアンケート実施は仙台市で方向性を検討し提案したという形になる。他都市の状況について現段階で詳細は得ていないが、今後の評価にあたって参考となる情報だと思うので、今回の分科会までに調査し、情報として提供したい。

○阿部委員長

事務局にて、他の政令都市の地域福祉計画に対する中間評価実施の有無、実施している際は形式などを調査し、次回の分科会で提供いただきたい。

事務局の発言では、中間評価を行うにあたり、事前調査をしたうえで提案している訳ではないとのこと。通常は事前調査や研究のうえ、モデルがあれば参考にしながらというのが一番よいと思うが、今回は仙台市独自の考え方で中間評価を導入したという旨ご理解いただきたい。

なお仙台市としても今後に生かせるのであれば、次期計画や最終評価に取り入れるか検討してほしい。

○伊丹委員

アンケートというのは、様式3のアンケート様式という理解でよいか。そして行政の評価の基準についてだが、例えばこの担当課の評価の理由の部分はAと記載されているが、担当課がこの事業についてどの基準でAと記載したのかが分からなかったので教えていただきたい。

○社会課長

行政の評価だが、SからDまで、S・A・B・C・Dという5段階で行っており、最も高い評価はS、最も低い評価はDとなっている。これは事業の内容達成状況で評価しているもので、当初の目標よりはるかに優れて実施した場合はS、目標よりも低い・劣るような評価が出たときはCやDという形で、自らに評価をつけている。

行政の評価基準について分かりにくい部分もあるかと思うため、評価の注釈なども記載して、アンケート先の皆様が評価できるようにしたいと思う。

○伊丹委員

担当課の評価の理由とあるが、行政の方が実際にその場に参加して評価しているのか、それとも事業の情報を集めて記載しているのか。例えば認知症カフェの推進では、包括で行っている認知症カフェに行政の方は参加していないので、どのように評価するのかは疑問に感じる。認知症カフェについてアンケートは来ているが、それをもって評価するという理解でよいのか知りたい。

○社会課

指標となる実施件数や開催内容、アンケートなどを踏まえ評価を行っている。実際に足を運んで見ているものばかりではないかもしれないが、実施回数などを指標として評価していると思われる。

○保険高齢部参事兼地域包括ケア推進課長

担当課より補足で、例えば認知症カフェの推進の事業であれば、（地域包括支援センターには）機能強化の職員がおり、機能強化ミーティングを定期的で開催している。また報告書も提出いただいていたが、すべての包括ではないが訪問したりすることもある。機能強化ミーティングや報告書の内容、実施件数などを総合的に勘案し評価を行っている。

○阿部委員長

アンケートを依頼する際、行政による評価の基準を示さないと分かりづらい。行政は進捗状況によって、理由も踏まえながら評価をするということになると思うが、伊丹委員や釣舟委員も発言されていたが、現場の感覚と異なる場合もあるのではないかと。

また村山委員からの発言を受け、冒頭事務局長の報告にもあったように、当該事業の主管課には結果をありのままにフィードバックするが、全体公表については少し穏やかになるか

もしれないという認識でよろしいか。

○社会課長

そのような認識で差し支えない。

○阿部委員長

事務局としては、アンケート実施先の事業者に思い切って評価してもらいたいということだと思う。

○小岩委員

例えば重点事業のところの3番目、地域福祉活動推進のためのコミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置で、民児協、包括協と記載されているが、民児協の協議会だけではなく、民生委員にアンケートをとるということか。その場合対象人数も事業ごとに異なると思い、不明瞭だと感じた。事業内容を把握・理解している人ばかりではない気がしているので、本当にアンケートに回答できるのか少し心配である。

またアンケート対象者数が記載されていないため、仙台市ではどの程度の人数を対象者数とし、中間評価をしようとしているのが分からなかった。他にも少し疑問があったりする。

○社会課長

コミュニティソーシャルワーカー配置事業のアンケートについては、民生委員児童委員協議会にお諮りする形になるかと思う。個別の民生委員すべてを想定しているものではないが、コミュニティソーシャルワーカーと関わっている協議会の方々に伺うか、場合によっては地区の民児協などに伺うのか、正しい評価のため調査先について相談しながらと考えている。

○阿部委員長

回答先の事務局だけで判断していいのか心配と不安を持たれると思う。かといって全ての構成員に調査するのは難しいため、その調整については実施先の事務局で相談してもらう必要があるのではないか。事務局で分かる範囲なのか、現業者から参考に話を伺ってアンケートを作成するのか、そのような基本方針がないと実施先で戸惑ってしまうと思う。

アンケートの依頼にあたり、どの程度、どの立場から何に基づいて評価するか基本方針のようなものを作るとよいのではと思う。

○小川委員

仙台市社協でもヒアリングやアンケート調査を実施している。泉区では29の地区社協があるが、全てに聞き取りを行いその評価をベースにしながら相対評価をしているのではないか。そのため、事前に実施先に説明に伺ってから依頼を行うと、スムーズに不安なくできると思われる。アンケートのみ送付されても対応できないと思うので、検討いただきたい。

○阿部委員長

今の提案を受け、アンケートのアプローチ方法について検討いただきたい。

○傳野委員

自分は仙台市の連合町内会長会のメンバーで、会長会は各区からの代表1名で形成されている。普段は事務局職員しかいないが、月1回、午後2時から1時間～2時間かけて行っている会合で代表が集合している。その際仙台市からの事業や会議を行っている。事務局にアンケートを実施しても対応できないと思うので、会合の際に依頼をしてもらえればと思う。そういった時間であれば我々も協力できると思う。



○伊丹委員

先ほども意見が出ていたが、やはり支援者だけでなく利用者や地域の方々にアンケートを実施することが大事だと考える。特に地域包括ケアシステムのなかでは、事務局が言っている地域力を大事にしていると思う。その評価をせず、地域に全て投げ出されてしまうと、一番困るのは地域の方々である。地域の声を拾えるところがあるとよいのかなと思う。

また、例えば介護予防自主グループ支援事業だが、包括も関係しているが実際に活動しているのは地域のサポーターの方々であるため、その方が何を感じ、何を課題にして取り組んでいるのかについて調査すべきではないかと思う。

○社会課長

例えば包括協に相談に伺った際に、そういった提案をできる限り受け、対応を検討させていただきたい。

○阿部委員長

1 点目に今回のアンケートという手法について、事務局で対象先の選定や調査項目など、中間評価のねらいをはっきりさせておく必要がある。立岡委員や伊丹委員の発言のように、現場あるいは当事者の意見を聞くことの重要性は避けられないと思うが、事務局でも何らかの意図やねらいをもってこのような手法やターゲティングをしたと思うので、そこをはっきりさせたほうがよい。

2 点目に、事業の担当部局にはフィードバックをするということである。それも含め、仙台市の地域福祉計画において最終年度に計画が遂行されるよう、中間評価にて後押しをするという目的で皆様からお力添えいただきたいと考えている。また、事務局としてもその考えを今回の中間評価のねらいに入れておいたほうがよいと思う。後押しをするという意味で中間評価を行っているという姿勢は、庁内部局に向けても必要だと感じる。

今回色々のご提案、ご意見いただいたことを文章にしつつ、アンケートに臨むアプローチの仕方について検討し、この草案ないし枠組みの中で進めていきたい。今回基本的な考え方等について色々と言いただいたため、今後の取扱いについては私と事務局に一任いただきたい。次回の分科会で何らかの形で報告させていただく。

<委員承諾>

(5) 報告事項

<委員、事務局ともに特になし>

(6) 閉会